

5 釧路・根室連携地域

釧路市、根室市、釧路町、厚岸町、浜中町、
標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町、別海町、
中標津町、標津町、羅臼町

< 連携地域の概要 >

・釧路・根室連携地域は、阿寒の山々や知床連峰が連なり、太平洋とオホーツク海に面して、国内最大の湿原である釧路湿原を中心に森林や湿原、湖沼、海岸が広がっている。



(釧路地域)

・大規模な酪農やサンマ、スケトウダラ、サケ、コンブ、カキなどの漁業、食料品や紙・紙加工品、飲料・飼料などの製造業のほか、阿寒や釧路湿原の国立公園、タンチョウなどの地域資源を活かした観光産業などが展開されている。

(根室地域)

・大規模な酪農やサケ・マス、サンマ、ホタテガイ、コンブなどの漁業、水産加工を主体とする食料品製造業のほか、知床国立公園やオジロワシなど数多くの天然記念物などの地域資源を活かした観光産業などが展開されている。

5 釧路・根室連携地域
(1) 釧路地域

5-(1) 釧路地域

釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、
鶴居村、白糠町



産業3部門別就業者割合(平成17年国勢調査(産業別就業者数)から)

第1次産業 、第2次産業 、第3次産業



産業・経済の現状と課題

商工業・建設業

- ・石炭産業など釧路地域を支えてきた基幹産業が厳しい事業環境にある中で、水産加工業を中心とする食料品製造業(製造品出荷額等の約45%(H18工業統計))は、これまで以上にそのポジションを高めつつあるが、「加工原魚」の水揚げの減少や産地間競争の中で、新製品の開発・品質向上・製造コスト低減等が課題となっている。
- ・建設業は公共事業の削減等により、平成19年度の公共工事請負金額は564億円と、平成14年度と比べると82%まで落ち込むなど、厳しい経営環境が続いている。このような状況の中、建設業の新分野進出においては、エゾシカなどの地域資源を活かした新分野進出も見られる。活力ある建設業の再生に向けて、経営基盤の強化や新分野への進出などが課題となっている。
- ・小売業は、平成19年商業統計調査によると商店数で2,358店、従業員数で16,669人となっており、平成16年と比べると商店数で11.9%、従業員数で9.8%とそれぞれ大きく減少している。
- ・都市部に比較して消費行動が車に依存する地域においては、郊外型の大型商業施設の増加等により、地域のコミュニティ形成の一端を担ってきた中心市街地は、人口減や高齢化がさらに進行する中で、その衰退が更に顕著になっており、将来の街並み形成の問題に発展しつつある。
- ・IT企業について、「北海道ITレポート2007」によると、釧路市には4事業所が存在し、従業員数は134人、売上高は18億円となっており、近年のIT企業やコールセンターの誘致により、集積が進みつつある。

観光

- ・阿寒国立公園や釧路湿原国立公園をはじめ、厚岸道立自然公園など、道内有数の豊かな自然環境を有する地域であるが、ここ数年、釧路発着路線の航空運賃の割高感を指摘する声などもあり、海外も含めた観光地との比較優位性の観点等から観光客入込客数(平成19年度観光客入込客数639万人)は減少傾向にあるため、航空路線のさらなる利便性向上を航空会社に要請していくほか、海外も含めた観光地との比較優位性の観点等から体験観光や食など道東ならではの特色と優位性を打ち出すなど、利用促進を図る必要が

ある。

- ・観光客誘致に加え地域での滞在時間の延長を図るため、人気の高い体験型観光の魅力のPRや体験観光事業者の育成支援、宿泊施設や外食店における地元食材の利用拡大、炭鉱や鉄道跡地などを利用した産業遺産観光の可能性検証などが課題となっている。

農業

- ・管内の農業は、恵まれた草地基盤を生かした酪農が主体で、釧路農業全体の農業産出額のうち畜産部門が9割以上を占めている。
- ・全道でもトップクラスの乳質を活かし、管内の出荷乳量の約2割程度を高速貨物船「ほくれん丸」などにより毎日関東方面へ移出している。また、地元向けの牛乳の生産や、アイスクリーム・チーズなどの乳製品加工・販売も盛んに行われている。
- ・耕種部門では内陸部で畑作（ばれいしょ、てんさい、そばなど）が行われており、野菜は冷涼な気候を活かして、大根やほうれん草、キャベツなどが地場野菜として販売し好評を博している。
- ・管内の農業は、大規模酪農・畜産が専業で行われているが、飼料等生産資材の高騰などにより経営は厳しさを増しており、経営体質の強化や担い手対策のほか、乳質維持やコスト対応のための牧草生産など、良質な自給飼料の増産が課題となっている。

水産業

- ・管内の水産業の平成18年の水揚げは、数量で17.5万t（全道比13.2%）、金額で280億円（全道比9.9%）で、200海里後のピーク時と比較して、数量で約11%、金額で約34%にまで減少している。
- ・こうした中、サンマ、スケトウダラ、ケガニ、シシャモなどで資源管理の取組を進めるとともに、コンブ、アサリ、ミスダコの漁場造成・保全、ウニ、ハタハタ、カキの人工種苗生産など特産的資源を中心に、海域特性に応じた栽培漁業を積極的に展開している。
- ・また、地域の特産物を活用した浜ならではの加工品づくり、土曜市など漁業協同組合の直売事業や漁業者による大都市圏での対面販売など「新鮮・安全でおいしい釧路の魚」を全国に発信している。
- ・管内の水産業は、水揚げの変動による不安定さに加え、資源水準の低下や燃料高騰などにより漁業経営は厳しい経営環境にあることから、資源管理型漁業や栽培漁業の推進による資源の維持増大や経営安定化による担い手の育成確保、さらには高度な衛生管理を目指した生産・流通施設の整備や老朽施設の更新などが課題となっている。

林業・木材産業

- ・管内の森林は、阿寒山系を中心に分布しており、森林面積は約39万haで、所管別では国有林・道有林・市町村有林の公有林が約61%を占めている。戦後荒廃した森林に積極的な造林を進め、管内森林面積の約30%がトドマツやカラマツを主体とした人工林である。一方、木材産業を見ると、製材・チップ・集成材工場等などが操業しており、農業・土木・教育分野等での木材利用が進められている。
- ・管内の林業・木材産業は、地域の豊富な森林資源を背景に発展してきたが、輸入木製品の増加や経営コストの上昇などにより厳しい経営環境にあることから、森林の整備や他業界と連携した地元産木材を利用する「地材地消」の取組などが課題となっている。

5 釧路・根室連携地域
(1) 釧路地域

産業・経済をめざす姿

エゾシカの地域ブランド化や水産物の衛生管理体制の整備など安全・安心で良質な農水産物の供給と地域資源の高付加価値化
家畜排せつ物の適正な管理・利用など自然循環型酪農経営による「環境」と調和した農業の振興
釧路湿原など豊かな自然資源と地域の食材を活かした観光地づくり

3つの戦略的視点による産業・経済活性化

付加価値

消費者に信頼される安全・安心なものづくりを基本に、エゾシカや水産加工品などの地域ブランドの確立やグリーンツーリズムなど新たな観光スタイルの加速などにより付加価値の向上を図る。

製造業の振興

- ・製造品出荷額等の約半分を占める食料品の付加価値を向上させるため、釧路工業技術センターや釧路市水産加工振興センター、道立釧路水産試験場などの地域の産業支援機関をはじめ、道立食品加工研究センターなどの圏域外の公設試験研究機関との連携を通じ、マーケットリサーチに関する専門家のアドバイスや中小企業地域資源活用プログラムなど国や道の支援制度を活用するなどして、市場ニーズに対応した差別化された新製品の開発から原料仕入れ・製造過程・販路開拓を経て安全・安心なモノをお客様へ提供するまでの一連のプロセスづくりを促進する。
- ・また、釧路地域には、水産食品の加工機械製造で経済産業省の「第一回ものづくり日本大賞」を受賞した事業所や鮮度保持で独自技術を開発している事業所があり、これら挑戦する事業所の技術開発や販路開拓などを、北海道産業振興条例など国や道の支援制度を活用するなどして促進する。
- ・また、水産加工を行う事業所の中には、経営の効率化を目指し、販売予測に基づく生産計画の策定や生産から販売までの一貫した統合情報システムを導入（IT活用）し、営業・生産・事務部門の一元管理によるコスト低減や省力化を図っている先進的な事業所があり、これらを範にIT経営応援隊（IT経営実践促進事業）など国や道の支援制度を活用するなどして、戦略的なIT経営の促進を図る。

「食」のブランド化の加速

- ・乳質改善など農畜産物の品質向上を図るとともにYes!clean制度等を活用した産地の確立や乳製品加工への取組などにより、農畜産物付加価値向上を推進する。
- ・「エゾシカ衛生処理マニュアル」の制定や「解体処理施設」の整備、一時養鹿場の開設など、他地域より有利なエゾシカ肉の安全・安心・安定という供給体制が整備され商品化が進められていることから、管内の飲食店や旅館などとも十分連携し、シカ肉料理の研究・開発や愛食運動など、地域ブランドとして確立を目指す。
- ・サンマ、サケ、ヤナギダコ、シシャモ、カキなど豊かな水産資源や全国でもトップクラスの乳質を誇る生乳など、豊富な地域資源を活かした新たな地域ブランドの形成や、「釧路-台湾ビジネスマッチング協会」による地域産品の海外への情報発信などにより「食

のブランド化」を促進する。

- ・地域資源を活用した食のブランド化を推進するため、生産者をはじめ、地域の食品加工研究機関や商工関係団体など地域全体が一丸となって、各種商談会や物産展等に積極的に参加するとともに、アンテナショップの活用、中小企業地域資源活用プログラムや道産食品独自認証制度など国や道の支援制度などを積極的に活用するなどして、商品等の研究・開発及び積極的なPRを行う。
- ・豊かな水産資源を水揚げ直後の鮮度で提供できるメリットを活かし、漁業協同組合や市場、水産加工関係者、流通・販売関係者と連携しながら、水揚げから加工・流通に至るまでの衛生管理体制の整備や地域ハサップ制度等の導入を促進するとともに、愛食レストランの普及・PRを積極的に行い、「食育」・「愛食」運動を強化する。
- ・サケ、コンブは一定の漁獲高があり、海外へも安定した提供ができることから、(社)北海道貿易物産振興会や漁業協同組合、水産加工・小売事業者等と連携し、各種商談会や物産展等へ積極的に参加するとともに、国内企業の海外営業所等を活用した情報の発信など新たな事業展開も研究するなど、世界的に高まる「天然もの」志向を追い風に、海外への情報発信を強化し、サケやコンブの輸出拡大を目指す。

【コラム】

<エゾシカ肉などの有効活用>

釧路の阿寒地区には、エゾシカの餌となる熊笹や広葉樹の樹皮が多いため、白糠地区と合わせて道東でも最大の越冬地になっています。エゾシカは、見た目もかわいく観光客にも人気の「北海道を代表する野生動物」ですが、近年、このエゾシカが増えすぎて、自然林の破壊や農林業への被害、更にはエゾシカとの接触事故などが深刻な問題になっています。

道東では毎年、多くのエゾシカが「害獣」として駆除されていますが、シカの肉は、高タンパクで低脂質、低カロリーでミネラルの豊富な高級食材としてヨーロッパなどで広く流通していることから、地域ではエゾシカを貴重な資源として捉え、有効活用についての検討が進んでいます。特に阿寒地区では、民間による取組みも積極的で、平成16年には「エゾシカ研究会」が立ち上がり、エゾシカバーガー等の開発やエゾシカの肥育・養鹿、解体等の施設整備も進んでいます。今後は、シカ肉の市場拡大に努めるとともに、エゾシカの角(つ)や皮革(かわ)などの更なる有効活用も期待されています。



「観光」のブランド化の加速

- ・「阿寒国立公園」、「釧路湿原国立公園」を有し、世界自然遺産「知床」にも隣接し、マリモなど特徴ある観光資源を活かすとともに、体験観光を核とした滞在型観光を目指す体制づくりを推進する。
- ・豊富な地元食材を核とした観光地の食の魅力アップを図るため、一次産業との連携をさらに深めながら、宿泊施設や外食店などによる地元食材を活用したメニューの提供などに取り組むとともに、旅行エージェントやマスコミなどへの情報発信を強化する。
- ・道内初の森林セラピー基地「山崎山林」や酪農業との連携によるグリーンツーリズム(酪農体験)など一次産業との連携によるゆとりツーリズムやヘルスツーリズムなどの新たな観光スタイルのPRや教育旅行の誘致を推進する。

5 釧路・根室連携地域

(1) 釧路地域

- ・経済産業省が平成19年11月に「近代化産業遺産」に認定した「雄別炭砒・雄別炭砒鉄道」など貴重な歴史的「産業遺産」と地域の魅力との組み合わせによる旅行商品化を通じた滞在型観光を促進する。
- ・平成18年7月に発足した、全国の「くしろの良き理解者」が会員となって「くしろの観光地づくり」のためのアイデアや情報提供を受ける「道東くしろ観光ファンクラブ」との連携による魅力ある観光地づくりを促進する。

成長分野の強化

- ・地域資源を活用した成長分野産業を創出するため、(財)釧路根室圏産業技術振興センターとの連携により医薬品や機能性食品としての活用が期待されるプロテオグリカン(サケ頭部鼻軟骨から抽出)を大量かつ低コストで精製することに成功した事業所については、成功モデルとなるよう支援機関と連携しスタートアップに努める。
- ・企業立地促進法に基づく釧路白糠地域の産業集積の形成等に関する基本計画に沿って、産学官連携組織である釧路ITクラスター推進協会との連携により、IT企業やコールセンターなど情報関連産業の集積や高度化を促進する。

建設業の経営改革

- ・「北海道建設産業支援プラン」に基づき、中小企業診断士による指導助言の支援策、建設業の経営者を対象にしたゼミナールなどを活用するとともに、「中小企業者等に対する受注機会の確保に関する推進方針」に基づき、中小建設業者の受注機会の確保に努めるなど、建設本業の強化を図る。
- ・また、豊富な地域資源をベースにエゾシカやダチョウの飼育・処理加工、カキの販売、農作業の受託を行う事例が見られる。更には、東京都大田区の精密部品製造会社と共同し、モノづくり分野に挑戦する事業所もあるなど、一部ではあるが積極的な進出事例が現れているところであるが、新分野進出に当たっては人材の育成・確保や販路開拓などの課題も少なくないため、こうした取組のフォローアップに努める。さらに、市町村をはじめ地域の関係団体と連携し、道の建設業等経営革新補助事業や各種支援制度などの活用により、新しい経営システムの構築や新分野への進出など新たな民間市場の開拓を推進する。

連携 協働

大学や(財)釧路根室圏産業技術振興センターなど試験研究機関などとの連携による研究開発から事業化までの一貫したシステム構築や観光関連産業や旅行業関係者との連携などにより個性あふれる産業づくりを進める。

産学官連携の推進

- ・釧路公立大学や釧路工業高等専門学校、(財)釧路根室圏産業技術振興センターを中核機関とし、地域の試験研究機関や行政、産業界との連携のもと、釧路地域のリサーチ&ビジネスパーク構想の推進による研究開発から事業化までの一貫したシステムを構築する。
- ・(財)釧路根室圏産業技術振興センターを中心に、プロテオグリカンの製造技術の開発など産業間、産学官連携による新産業創出に繋がる各プロジェクトの開発・事業化を促進する。

産業間連携・協働

- ・観光関連産業、旅行業関係者との連携や実践者による「くしろグリーンツーリズムネットワーク」などの活動を推進する。
- ・管内には多くの観光客も立ち寄る水産の物販店（和商市場など）があり、最近、当該物販店の連携協力により、管内のチーズ工房の数店が同施設でナチュラルチーズを販売し、観光客等から好評を得ており、今後の取組強化によりブランド化が期待できることから、国の農商工連携施策の活用などにより、こうした産業間（酪農製品製造×水産物販店）の連携強化を促進する。

まちづくりの中での商業の振興

- ・厳しい事業環境の中で、ポイントカードやスタンプラリーなどの共同した取組も生まれつつあることから、商工関係団体や行政などとも積極的に連携しながら、中小商業活力向上事業など国や道の支援制度を活用するなどして、商店街の活性化に向けた取組を推進する。
- ・釧路市の中心市街地には、行政、金融、ホテル、商店街、交通（JR・バス）機関が集積し地域活動の中心地であるとともに、街並みも暮盤の目で、わかりやすいまちづくりが進められていることから、中心市街地活性化法に基づく基本計画の策定に向けたセミナーやワークショップ、中心市街地活性化協議会の設立など、まちづくりと連動した総合的な取組を推進する。
- ・地元の店には大型商業施設にはない「地元ならではの」の魅力があることから、商工関係団体や商店街振興組合、町内会などとも連携し、地域における購買活動など、地元における下支え運動の推進を図るとともに、中心市街地と連携した商品・サービスの研究開発など、古くからの住宅地域での生鮮食料品販売店などの閉店・撤退に対応する取組の研究・検討を進める。

連携による雇用対策

- ・釧路公共職業安定所雇用対策推進協議会などにおいて、経済団体の動向等の把握や各行政機関等における新規施策等を広く周知するとともに、国の地域雇用開発助成金や新一村一雇用おこし支援事業など国や道の支援制度を活用するなどして、新規開業・新事業展開に積極的に取り組む事業者の雇用創出を促進する。
- ・国の地域雇用創造推進事業の有効活用を前提とした「雇用創造に自発的に取り組む協議会」を設立し、地域雇用創造推進事業の実施による市町村における雇用創造の取組や、地域雇用開発助成金など国の事業主向けの助成金の活用などにより、地域求職者の雇い入れなどを促進する。
- ・教育局、ハローワーク、高校等と連携し、経済団体や事業主団体などへの求人要請の実施や地元就職促進協議会における、新規高卒者の就職動向の把握及び各行政機関等の新規施策等の周知、新規就職促進会（合同面接会）の開催やジョブカフェ釧路の利用促進を図るとともに、国の若年者雇用促進特別奨励金などを活用し、若年者の就職を支援する。
- ・市町村、経済団体、労働組合などで構成される「釧路地域通年雇用促進支援協議会」への参画を通じ、協議会の実施する雇用確保・雇用促進に係る事業を活用し、事業主、季節労働者に対する通年雇用化に向けた意識醸成を図るとともに、季節労働者の通年雇用化を促進する。

5 釧路・根室連携地域 (1) 釧路地域

環境との 好循環

地域の豊かな自然環境を守りつつ、次の世代にしっかりと引き継いでいけるよう、家畜排せつ物の適正な管理・利用による自然循環型酪農経営の推進やサンマなどの資源管理の取組の強化により「持続可能」な経済活動を進める。

「環境」と調和した農業の振興

- ・農業農村基盤整備の着実な推進や飼料用とうもろこしの作付け拡大と良質な牧草生産により、豊富な自給飼料基盤を活かした自然循環型酪農の推進を図る。
- ・法の管理基準に基づく家畜排せつ物の適正な管理・利用など、環境と調和した自然循環型酪農経営を推進する。
- ・ハサップ制度の導入促進など、牛乳・乳製品の製造・販売における衛生管理を徹底する。

豊かな海を育む水産業の展開

- ・サンマ、スケトウダラ、ケガニ、シシャモなどの地域資源の資源評価精度の向上や、関係する漁業者が一致して取り組む資源管理体制の強化、さらにはTAC制度など公的制度の活用などにより、資源の持続的な利用を図る。
- ・ウニ、ハタハタ、カキ、マツカワなど海域に適した種苗生産・放流などの栽培漁業の展開や、コンブ、アサリ、タコなどの漁場・産卵礁を造成し、海域特性に応じた資源の増大を図る。
- ・ロシアとの民間漁業交渉や情報収集の取組を促進し、ロシア水域での安定的な操業の確保を図る。

地域に応じた森林づくりを進める林業・木材産業等の健全な発展

- ・阿寒山系をはじめとする豊富な森林資源や、パイロットフォレストや民有林を中心としたカラマツ人工林資源の循環利用を促進するため、木材業界と建築、家具建具など異業種が連携して、住宅、公共建築物、牛舎など農業構築物や校舎、机、椅子など教育施設などに地元産木材を利用する「地材地消」の取組を推進する。
- ・地域住民、NPO法人、企業、漁業・農業関係者などが連携した森林づくりを推進する。
- ・観光分野と連携して森林セラピーなどの新たな森林の利活用や「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取組である木育を推進する。

環境・リサイクル関連産業の振興

- ・釧路地域では、廃プラスチック包装容器の再資源化処理施設の建設や、産学官連携による家庭の使用済み食用油を活用したバイオディーゼル燃料の研究など、環境・リサイクルに関連する取組が行われていることから、産業廃棄物を利用したリサイクル製品の事業化に向けた研究事業などについて、北海道循環資源利用促進税条例に基づく関連支援制度などにより、地域の循環資源を活用したリサイクル産業の創出を推進する。

新エネルギーの開発・導入の促進

- ・釧路市は、夏に霧が多く発生するが冬は晴天が続くため、年間を通すと比較的日照時間の長い地域であり、太陽光をエネルギーとして活用するのに適している。また、浜中町では風力発電が行われ、釧路市阿寒町や弟子屈町では地熱や温泉熱の活用が可能である。こうした地域の特性を活かした新エネルギーの活用を促進するため、新エネルギーの開発・導入に関する助言や情報提供を行う。

- ・バイオマスエネルギーとして活用可能な畜産資源、森林資源、食品資源等が豊富であることから、既に取り組が進められている家畜排せつ物を活用したバイオマス発電やバイオマス熱利用のほか、地域住民や企業、自治体等の連携により、バイオマスの有効活用に向けた取組を促進する。

地域の経済活性化を支える基盤づくり

産業人材の育成

- ・農業の担い手の減少や高齢化が進行していることから、認定農業者の拡大推進、新規就農者を含めた担い手の育成・確保、農業生産法人の育成などを通じ、農業・農村の持続的に発展させる構造基盤を構築する。
- ・林業労働力の減少や高齢化などに対応するため、団塊世代やU I ターンの就労促進などによる新規参入希望者への支援体制の整備や、林業労働者を対象とした資格取得や林業労働安全衛生の推進などを図る。
- ・地域を支える活力ある水産業の発展に向け、高齢化・後継者不足に伴う担い手を育成する。
- ・地域経済の発展を担う産業を支える人材を育成するため、道立高等技術専門学院や釧路地域職業訓練センターなど公共・民間の職業能力開発施設において、技術革新の進展や地域ニーズに即応した職業能力開発を促進する。

産業拠点の形成

- ・豊富で良質な農林水産資源を活かした食料品製造業を始めとする地域資源関連産業など、釧路白糠地域産業活性化計画に基づく指定集積業種（地域資源関連産業関連、環境・省エネルギー関連産業関連、情報関連産業関連、機械金属関連産業関連）を中心に、企業立地促進法や北海道産業振興条例など国や道の支援制度を活用しながら関係市町と連携し、地域の工業団地などへの企業立地を促進する。
- ・立地企業へのフォローアップを実施し、立地後のサポートを強化するとともに、新たな設備投資や地元企業との連携に関する情報収集を実施する。

交通・物流インフラの整備

- ・北海道横断自動車道（本別～釧路間）や地域高規格道路の整備を促進する。
- ・釧路空港の機能強化や路線の充実を図るとともに、国際化やC I Q体制の整備を促進する。
- ・釧路港東港区における耐震・旅客船ターミナルの整備を促進する。
- ・情報発信などによる産業の活性化を進めるため、通信事業者や市町村などと連携してブロードバンド環境の整備を促進する。

5 釧路・根室連携地域
 (1) 釧路地域

釧路地域の主なデータ

1 人口(H17)	261,891人	国勢調査
2 事業所数(H18)	12,558事業所	事業所・企業統計調査 (農林水産業及び公務を除く(民営ベ-ス))
3 小売業		
(1) 事業所数(H19)	2,358事業所	商業統計調査(速報値)
(2) 従業者数(H19)	16,669人	"
4 製造業		
(1) 製造品等出荷額(H18)	37,435,903万円	工業統計調査
(2) 従業者数(H18)	9,893人	"
5 建設業		
(1) 事業所数(H18)	1,157事業所	事業所・企業統計調査
(2) 従業者数(H18)	10,670人	"
6 観光		
(1) 観光入込客数(H19)	639万人	北海道観光入込客数調査
7 農業		
(1) 農業産出額(H18)	530億円	生産農業所得統計
(2) 農家人口(販売農家)(H17)	6,684人	世界農業センサス
8 漁業		
(1) 漁業生産額(H18)	28,052百万円	北海道水産現勢
(2) 漁業就業者数(H15)	3,853人	第11次漁業センサス
9 林業		
(1) 森林面積(H19.4.1現在)	389,188ha	北海道林業統計

5 釧路・根室連携地域
(1) 釧路地域

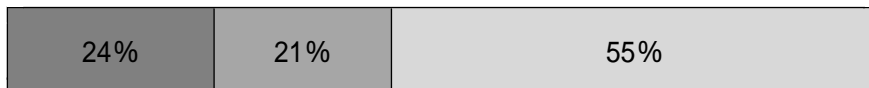
5-(2) 根室地域

根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町



産業3部門別就業者割合(平成17年国勢調査(産業別就業者数)から)

第1次産業 、第2次産業 、第3次産業



産業・経済の現状と課題

商工業・建設業

- ・製造業は、平成18年工業統計調査によると、製造品出荷額等が1,488億円となっており、工業生産は食料品製造業が主体で、出荷額の92.9%を占めている。
なかでも、水産食料品製造業はウエイトが高く、その経営形態はほとんどが小規模で、加工業種も塩蔵、冷凍等が主体であるが、H A C C P(ハサップ、危害分析重要管理点)導入などの取組も進められており、さらに付加価値の高い製品開発やこれらの商品の販路拡大などが求められている。
- ・建設業は、公共事業の削減等により平成19年度の公共工事請負金額が平成14年度と比べ48%減の202億円に落ち込み、また、建設業者数も平成14年度と比べ32社減の377社となっており、厳しい経営環境が続いている。このような状況の中、建設業の新分野進出においては、農業分野などへの進出も見られる。活力ある建設業の再生に向けて、経営基盤の強化やさらなる新分野進出などが課題となっている。
- ・小売業は、平成19年商業統計調査によると、商店数で883店、従業員数で5,754人となっており、平成16年と比べると商店数で7.0%、従業員数で6.1%とそれぞれ減少している。商店は大部分が小規模形態で、経営効率が低く、相次ぐ大型店の出店により影響を受けており、商工団体を中心とした商店街の活性化の取組の促進が課題となっている。

観光

- ・知床国立公園や野付風蓮道立自然公園など雄大で神秘的な自然公園があり、平成17年7月に知床が世界自然遺産に、11月には野付半島・野付湾、風蓮・春国岱地域がラムサール条約登録湿地に登録され、タンチョウ、シマフクロウ、クマガラ、オジロワシなど数多くの天然記念物の格好の生息地となっている。
観光入込客数は、長引く景気の低迷などにより近年減少傾向にあり、夏季集中型で通過型観光の比重が高い状況が続いており(平成19年度においては、229万人、対前年比5.9%の減少)、寒冷期観光の強化、滞在型観光の促進が課題となっている。

農業

- ・管内の農業は、冷涼な気候条件のもとで、豊かな土地資源を背景に、大規模な草地型酪農を展開し、道内生乳生産量の約2割程度を占める酪農専業地帯として発展している。
- ・さらに、農業・農村は、安全・安心で良質な食料の安定供給をはじめ、国土や環境の保全、美しい景観の形成などの多面的な機能の発揮を通じ、健全な暮らしを支えるとともに、食品加工や観光など幅広い産業と結びつき、地域の基幹産業として重要な役割を担っている。
- ・こうした中、WTO農業交渉などの国際環境の変化にも対応しながら、効率的でゆとりある酪農経営を実現するため、生産性の高い草地基盤整備をはじめ、家畜飼養・衛生管理技術の向上など、消費者の期待に応える安全・安心かつ品質の高い土地利用型酪農経営の健全な発展が求められている。

水産業

- ・管内の水産業は、サケ・マス(北洋)、サンマ、スケトウダラ、ホタテガイを主体とする漁船漁業、秋サケを主体とする定置網漁業及びコンブ、ウニ、アサリを主体とする採介藻漁業から構成され、道内漁業生産の約2割程度を占める一大生産地域となっている。
- ・根室はかつて、北洋漁業の基地として栄えてきたが、国際的な漁業規制の強化によって、漁場の縮小を余儀なくされ、現在は、ロシア200海里内において、ロシアとの政府間・民間交渉により「さけ・ます流し網漁業」や「底はえなわ漁業」が行われている。
- ・こうした中で、ブランド化の促進や水産資源の適正な管理などが課題となっている。

林業・木材産業

- ・管内の森林の蓄積量は厳しい気象条件から、1ヘクタールあたり89m³(全道：1ヘクタールあたり124m³)と木材資源としては豊かではないが、近年、地球環境問題への関心が高まる中、森林の役割が大きくクローズアップされ、水環境の保全など、森林の公益的機能を重視した森林整備が進められている。
- ・木材加工では、カラマツ製材が最も多く生産されているが、大半は梱包材として本州に移出されており、また、地域の基幹産業である漁業と結びついたトドマツを原料とした漁箱の生産も盛んであるが、いずれも付加価値が低い利用となっている。

産業・経済のめざす姿

自給飼料基盤に立脚した酪農経営の確立や、マツカワなどの栽培漁業の推進など安全・安心で良質な農水産物並びに加工食品の供給と付加価値を高める地域ブランドづくり
「知床」や「ラムサール条約登録湿地」など豊かな自然環境と地域の食材を活かした観光の振興

3つの戦略的視点による産業・経済活性化

付加価値

豊富な農水産資源を原料とした製品開発や食のブランド化の促進などにより、付加価値の向上を図る。

「食」のブランド化の加速

- ・生鮮魚介類を中心とした国内消費の低迷、輸入の増大や供給過剰による価格の低下、安全・安心や素材へのこだわりなど食品に対する消費者の嗜好の変化を踏まえ、水産物のブランド化を推進するため、即売会を開催するなど、都市部への販路拡大を図る。

(ブランド化へ向けた主な取組)

- ・さんま～一本立ち歯舞さんま(歯舞)、汐風さんま(落石)
- ・さけ～歯舞しゃけ丸、歯舞産鮭児(歯舞)、西別鮭(別海)、羅皇(羅臼)
- ・たら～ふとっばら(歯舞)
- ・こんぶ～歯舞昆布(歯舞)、羅臼昆布(羅臼)
- ・うに～北の舞うに(歯舞)
- ・水産加工品(鮭山漬け、いくら等)、乳製品(工房製チーズ、のむヨーグルト等)、調味品(こんぶ醤油、こんぶ塩等)、酒(牛乳発泡酒等)、麺類(ミルクラーメン等)などの加工製品開発・販売のほか、地域の特産食材としてエゾシカ肉の有効活用や標津町での地域H A C C Pの取組が行われており、食のブランド化を加速するため、「道産食品独自認証制度」や「地域団体商標制度」等の国や道の支援制度を一層活用する。
- ・良質な自給飼料の生産拡大による粗飼料自給率の向上や、減農薬・減化学肥料によるクリーン農業を推進し、消費者の食の安全への関心に応える安全・安心で良質な生乳・乳製品、てん菜・ばれいしょ・大根・ブロッコリーなどの農畜産物の安定的な生産を促進する。
- ・「食」の安全や大切さを教え学ぶ「食育」、地域で生産された農畜産物を地域で消費する「地産地消」、地域に根ざした食文化の形成や伝承を目指す「スローフード運動」を総合的に進める「愛食運動」を推進するため、酪農体験学習や普及啓発を行う。
- ・セミナー開催等による食や観光などのブランド資源の磨き上げや、ブランド化の気運の醸成、キャンペーン開催などによる首都圏の企業や消費者と地域との双方向交流の促進など、根室地域そのもののブランド化にも取り組み、食及び観光のブランド化をさらに加速させていく。

「観光」のブランド化の加速

- ・滞在型観光の促進に向け、神秘的な自然環境、雄大で北海道らしい景観、数多くの天然記念物など多くの観光資源を活用したカヌー、フットパス、寒冷期も楽しめるバードウォッチングなどの自然環境とのふれあいや酪農・漁業などと連携した体験型観光に加え、地元の食材を活かしたもてなしなどによる「根室らしいツーリズム」の展開を図る。

【コラム】

< 「ねむろ地域」の魅力体験 >

「ねむろ地域」は世界自然遺産「知床」に代表される自然環境や大酪農地帯の雄大な景観に恵まれた、酪農・漁業が盛んな地域です。そしてこれらを観光資源として「体験型観光」の取組が各地で行われています。

なかでも最近人気が高まりつつあるのが英国生まれの「フットパス」です。雄大な酪農郷の風景を目にしなが、自分のペースで歩みを進め、時には立ち止まり、控えめに咲く花々を眺めながら、ゆったりとした時間の流れを感じていただくものです。最近では海外からのお客さんも訪れるようになりました。

また、羅臼町ではホエールウォッチングを楽しむことができます。マッコウクジラのほか最近ではナガスクジラも出現し、日本有数の地域となっています。

このほか冬季でも楽しめるバードウォッチングはもちろん、地域産業である酪農や漁業、加工業の体験メニューも豊富で、道外から修学旅行で学生も多く訪れています。



製造業の振興

- ・中小企業地域資源活用プログラムの活用や「どさんこプラザ」でのテスト販売などにより、地域の豊富な農水産資源を原料とした付加価値の高い製品の開発・新サービスの向上や販路拡大を促進することにより、地域産業の振興を図る。

成長分野の強化

- ・天然鮭の未利用部分を活用した健康食品や化粧品の原料生産の取組などが行われており、今後も、北海道産業振興条例など国や道の支援制度を活用して、地域の資源を活用したバイオ産業などの新産業創出に向けた取組を進め、どさんこプラザや商談会の活用による販路拡大に取り組む。

建設業の経営改革

- ・「中小企業者等に対する受注機会の確保に関する推進方針」に基づき、中小建設業者の受注機会の確保に努めるほか、経営力向上・人材育成のための講演会の開催や、経営課題解決のための中小企業診断士派遣、国や道の各種支援制度についての積極的な情報提供などを通じて、建設業本業の強化を図る。
- ・地域においては、建設業者による農作業の受託、エゾシカ肉加工処理業、養豚業への進出事例があるが、新分野進出に当たっては、人材の育成・確保や販路開拓などの課題も少なくないことから、これらの既進出企業へのフォローアップに努める。さらに、市町村や地域の関係団体と連携し、建設業等経営革新事業など国や道の支援制度の効果的な活用を促すとともに他地域の事例などの紹介に努めるなど、新分野進出に向けた取組を促進する。

連携
協働

産学官及び金融機関等連携の取組の推進や、酪農・漁業などと連携した体験型観光の取組など産業間の連携・協働の推進により、経済の活性化を促進する。

産学官連携の推進

- ・中小企業、農業者、漁業者、地域金融機関などで構成される地域内各産業クラスター創造研究会の活動に対して、国や道等の各種支援制度の情報提供等を行う。

産業間連携・協働

- ・酪農・漁業などと連携した体験型観光の取組が行われており、地域観光を推進するため農業・漁業団体や経済団体など多業種で構成する「根室地域観光推進会議」を開催する。
- ・各産業分野の事業者、産業団体間の連携・協働を推進するため、地域全体が連携して根室地域のブランド化に取り組むための地域内ネットワーク組織を構築する。
- ・管内市町が連携して行う移住・定住のプロモーションと、食のイベントや体験型観光との連携の促進などにより、交流人口の増加による地域経済の活性化を目指す。

まちづくりの中での商業の振興

- ・時代の変化に対応した魅力ある商店街を創出するため、根室市で商店街ポイントカード事業や空き店舗活用事業の実施、中標津町で商店街の約370店舗が参加しての「おもてなしの心」の普及事業や中心市街地でのイベントの開催など、商店街活性化に向けた取組が進められており、今後も地元で組織されている中心市街地活性化のための組織への情報提供・助言や中小商業活力向上事業など国や道の支援制度を活用して、中心市街地等の商店街の活性化への取組を促進する。

連携による雇用対策

- ・新一村一雇用おこし事業など国や道の支援制度を活用するなどして、新規開業・新事業展開により雇用創出を促進する。
- ・国の地域雇用創造推進事業の有効活用による市町村等における雇用創造の取組や、地域雇用開発助成金をはじめとする国の助成金の活用などによる地域求職者の雇い入れを促進する。
- ・新規高卒者の就職促進を図るため、関係機関（教育局、ハローワーク等）と連携し、企業や事業主団体等への求人要請を実施する。
- ・季節労働者の通年雇用化の促進に向け、通年雇用促進支援事業に係る地域の協議会への参画を図るとともに、道内他地域のモデル的な事例の紹介などを実施する。

環境との
好循環

地域の豊かな自然環境を守りつつ、次の世代にしっかりと引き継いでいけるよう、自給飼料基盤に立脚した酪農経営の確立やYes!clean表示制度を活用した産地の育成、マツカワなどの栽培漁業の推進、農業系廃棄物などを生かしたバイオマスの利活用など、「持続可能」な経済活動を進める。

「環境」と調和した農業の振興

- ・消費者の食の安全への関心に応える農業生産と付加価値の高い農畜産物販売を推進するため、乳質改善や良質な自給飼料の生産拡大やYes!clean表示制度を活用した産地の確立を図る。
- ・農村環境の保全を図るため、農業用廃プラスチックや家畜ふん尿など農業系廃棄物や副産物の適正な処理やリサイクルによる有効利用に取り組む。
- ・河川周辺に農地緩衝林や畜舎排水処理施設の整備を普及するほか、環境保全や農村景観に配慮した生産基盤の整備により、持続的な生産活動を通じて発揮されている農業農村の持つ多面的機能の維持・増進を図る。

豊かな海を育む水産業の展開

- ・TAC（漁獲可能量）制度等を活用し、サンマやスケトウダラなどの水産資源の適正な管理を推進する。
- ・サケやホタテガイに加え、マツカワ、ニシンなど地域特産種の種苗放流による資源増大に向けた栽培漁業を推進するとともに、ナガコンブなどの生産維持に向けた雑海藻駆除の取組を推進する。
- ・水産資源の生育の場である水域環境の保全を図るための藻場の造成や海浜清掃などの取組を推進する。
- ・北方四島周辺水域における安全操業や、貝殻島コンブ漁業などの操業機会確保に向けた交渉を促進する。

地域に応じた森林づくりを進める林業・木材産業などの健全な発展

- ・酪農業が盛んであることから、牛舎・堆肥舎の木造化やオガ粉の敷料への利用の促進による木材の付加価値向上のため、コスト比較や性能についてのPRを進める。
- ・地域の水環境を保全するため、「ねむろ水辺の森づくりモデル事業」により、河川周辺に農地緩衝林のモデル設置を実施（根室市、標津町）しており、農地周辺の河畔林の整備や魚つき林の造成の推進に向け、漁業関係者との連携による植樹活動を進める。

環境・リサイクル関連産業の振興

- ・北海道循環資源利用促進税条例など国や道の支援制度を活用し、地域の循環資源を用いた環境・リサイクル産業の事業化を推進する。

新エネルギーの開発・導入の促進

- ・地域は大規模な草地型酪農が展開され、大量の家畜ふん尿が発生しており、バイオマスネットワークねむろでは、地球温暖化の防止や循環型社会の推進を図る観点から地域全体で連携をとりながら、地域の特色を活かしたバイオマス（家畜ふん尿）の利活用促進の取組を検討する。
- ・特に、別海町では平成18年3月にバイオマスタウン構想を策定し、家畜ふん尿のバイオ

5 釧路・根室連携地域 (2) 根室地域

ガス利活用への検討や、暖房用燃料や畜産農家の牛舎内で給湯器用燃料として実用化に向けた実証試験を実施し、普及に向け検討を進めており、今後も、地域での新エネルギー導入のための取組に参画し、先進事例や関連施策の紹介を行う。

地域の経済活性化を支える基盤づくり

産業人材の育成

- ・新規就農者や後継者が農業・農村を支える担い手としての知識や技術を習得するため、指導農業士等の協力を得て就農トレーナー制度や研修会により、若手農業者の育成を図るとともに、女性の能力発揮・活躍の場づくりを推進するため、女性が経営や地域活動に参画しやすい環境づくりを進める。
- ・意欲と能力のある担い手を育成・確保するため、認定農業者の育成や関係機関と連携の下での農業法人の育成、農業者の創意工夫を活かしたアグリビジネスへの取組を促進する。
- ・地域農業の持続的な発展に向け、コントラクターやTMRセンター及び酪農ヘルパーなどの農業経営を支援する組織を育成し、地域全体としての農業支援システムづくりを推進する。
- ・北海道森林整備担い手対策基金など国や道の支援制度の活用により、林業労働者への総合支援を拡充・強化するとともに、新規参入希望者への支援体制を整備する。
- ・地域を支える活力ある水産業の発展に向け、高齢化・後継者不足に伴う担い手の育成・確保を促進する。
- ・認定職業訓練等の効果的な推進により、地域に必要な産業人材の育成を図る。

産業拠点の形成

- ・地域の豊富な農水産資源を活かした食料品製造業を中心に、企業立地促進法や北海道産業振興条例の助成など国や道の支援制度の活用や進出企業のフォローアップにより、新たな企業の誘致や既存企業の事業拡大を推進する。

交通・物流・通信インフラの整備

- ・高規格幹線道路や地域高規格道路の整備を促進する。
- ・管内唯一の高速交通手段として重要な空港である中標津空港について、航空路線の拡充や航空機の大型化に対応できる空港機能の強化等を促進する。
- ・重要港湾根室港の港湾機能を充実させる。また、北方圏との貿易拠点港としての機能が一層発揮できるようC I Q体制の整備・充実を促進する。
- ・情報発信などによる産業の活性化を進めるため、通信事業者や市町村などと連携してブロードバンド環境の整備を促進する。

5 釧路・根室連携地域
(2) 根室地域

根室地域の主なデータ

1 人口(H17)	84,057人	国勢調査
2 事業所数(H18)	4,169事業所	事業所・企業統計調査 (農林水産業及び公務を除く民営ベース)
3 小売業		
(1) 事業所数(H19)	883事業所	商業統計調査(速報値)
(2) 従業者数(H19)	5,754人	"
4 製造業		
(1) 製造品等出荷額(H18)	14,880,406万円	工業統計調査
(2) 従業者数(H18)	4,239人	"
5 建設業		
(1) 事業所数(H18)	401事業所	事業所・企業統計調査
(2) 従業者数(H18)	3,575人	"
6 観光		
(1) 観光入込客数(H19)	229万人	北海道観光入込客数調査
7 農業		
(1) 農業産出額(H18)	740億円	生産農業所得統計
(2) 農家人口(販売農家)(H17)	7,639人	世界農業センサス
8 漁業		
(1) 漁業生産額(H18)	51,501百万円	北海道水産現勢
(2) 漁業就業者数(H15)	3,620人	第11次漁業センサス
9 林業		
(1) 森林面積(H19.4.1現在)	169,139ha	北海道林業統計

< 釧路・根室連携地域における地域間連携による取組 >

- ・釧路・根室連携地域における魅力ある観光地づくりを進めるためには、阿寒国立公園や知床国立公園など共有する観光資源を持つ十勝連携地域やオホーツク連携地域との地域間連携による観光メニューの開発や道内外への効果的なPRなどが重要となっている。
- ・このため、道東4支庁管内の体験観光事業者などとの連携による体験観光ビジネス交流会を開催し、道東の体験型観光の魅力を旅行会社などにPRするとともに、道東地域の行政や観光関係団体、経済関係団体、農林水産業団体との連携による道東地域観光戦略会議を開催するなど、広域観光の推進を図る。
- ・隣接する十勝連携地域やオホーツク連携地域との連携を深め、観光ルートの設定、情報交換の推進を図るため、道東4支庁観光連盟連絡会議、ひがし北海道観光連絡協議会などとの連携を図る。
- ・シーニックバイウエイ（北街道）とラムサール街道（南街道）をつなげ、釧路・根室地域の魅力を一体として発信するなど、両地域の連携を促進する。